

FACE

松岡 辰哉さん（一般財団法人大阪教育文化振興財団 キッズプラザ大阪 勤務）
平成28年3月 生活未来科 食物栄養コース卒業



松岡さんの1日のスケジュール

8：30 出勤
9：00 始業
9：15 パートさんとのミーティング
9：45 ボランティアさんとのミーティング

天神橋筋商店街や天満市場で仕入れ、試作、企画書・仕様書作成、会議資料準備、協力企業・団体との電話交渉、媒体作り etc.

16：45 ボランティアさんとのミーティング
17：00 パートさんとのミーティング
17：30 終業（日によっては残業）

VOICE

食事を楽しむ方々の喜びが、私の仕事のモチベーションです。
幅広い世代にかかわりながら、仕事を楽しくしています。

現在のお仕事について教えてください。

大阪の天満駅の近く、関西テレビ隣にあるキッズプラザで働いています。その中のパーティーキッチンという、子ども向けの調理実習室で行うプログラムの企画から提案、準備、実施までを行っています。

パーティーキッチンでのプログラム実施は、主にパーティーキッチン専属のパートさん、ボランティアさん、あと他のエリアも含めてローテーションでお手伝い頂くボランティアさんにしていただいて、自分はそのフォローをしています。

面接と実技試験で選考されたパートさんたちは、年代も20歳代から50歳代まで幅広く、病院の管理栄養士、食育インストラクター、料理教室をされている方など、様々な職歴の方々を力合わせてお手伝い頂いています。ボランティアさんはシニア世代の方々です。こちらの皆さんも前職は様々。経験値も高いし、風格もあって、心が広い方、気遣い、気

配りができる方が多く助けて頂いています。

今の仕事を選んだきっかけを教えてください。

就職活動をしなればと思った時には保育園で働きたい、変わった仕事がしたいと思いながら、求人情報を探したり、同じクラスの社会人学生さんのお子さんが通っていた保育園が食に力を入れていらっしやだったので募集はなかったのですが見学に行ったりもしました。

子どもの食にかかわる仕事に就きたいと思ったのは？

2回生の時の学外実習で保育所に行かせて頂き、子どもたちのパワフルな環境に多く刺激を受けたというか、給食と一緒に食べていても、食育の時間に発表させてもらった時も、一人ひとりの反応が違い、学びが多かったです。子どもたちはかわいしいし、自分が作った給食を食べる成長する姿をみたいと考えるようにな

りました。

入学当初は、子どもにかかわる仕事に就くとは想定していませんでしたよね。

はい。入学当初は、今のように、人前で喋る仕事にはつかないと思ってました（笑）。厨房にこもって料理さえできたらいいと思っていました。でも、給食管理実習やスイーツコンテストや市場まつり、親子クッキングなどの課外活動で、食べている人の顔を見たり、お客様、食べて頂く方と接したりして、厨房の中にいるだけでは面白くないと思うようになりました。顔を見たり、声を聞いたりするとモチベーションが上がり、作るものに影響することを実感したんです。

主なお客様は子どもたち、そしてその保護者です。仕事仲間も、お話しした通りです。本当にあらゆる年代の人たちに関わりながら仕事をしています。この仕事を心から楽しんでいます。

現在のお仕事について教えてください。

伊賀北部農業協同組合（JAいがほくぶ）の金融業部門で渉外を担当しています。法人との取引や貯金、ローン関係、年金、ライフプランなど、お客様の生活向上に役立つ生活づくりをサポートしています。仕事のやりがいは、お客様にあったより良いライフプランを提供することで、笑顔になってもらえることです。地域密着でお客様を第一にと常に意識し業務に取り組んでいるので、「村木さん、いつもありがとう」と声をかけられ、この仕事をやって良かったなぁと実感します。

佐保で学んでよかったことは？

ビジネスキャリアコースは少人数で、グループワークやプレゼンテーションを取り入れた授業が多く、話し合ったり、発表したりする機会が多かったです。人前で話すことは得意ではなかったのですが、佐保での2年間で話すことが苦にならなくなり、そのおかげで、今ではたくましく業務に取り組んでいます。インターンシップ、ゼミ、卒業研究など、自分から動かなければ物事が進んでいかないことを経験し、社会の厳しさ、プログラム達成の難しさ、意見を貫く大変さを痛感した2年間でしたが、その時の学びや達成感が社会に出てから活かしています。くじけそうになった時に、友達や先生に助けられたことに今でも感謝しています。

**現在のお仕事について教えてください。**

職場では独り立ちもして、担当の利用者様もいます。また、カンファレンスなどの会議に参加したり、新しく入ってきた職員の指導もできるようになってきました。仕事内容としては、排泄、食事、入浴の介助をはじめ、レクリエーションで花見に出かけたり、体操をしたり、おやつ作りをしたりしています。

「こんな母（父）の姿、みたことないです」といったように、元気になられた利用者様をみてご家族が喜んでくださる時に、この仕事のやりがいを一番強く感じます。

佐保で学んでよかったことは？

ボディメカニクスや移乗の方法など、基礎的な知識と技術を丁寧にしっかり学べたことが本当に良かったと思います。入社したら、出来て当たり前だとされるのが思いの外、たくさんありました。卒業後、働くようになってから在学中に基礎を固めることができて良かったと実感しました。



現在のお仕事について教えてください。

生駒市にある奈良佐保短期大学の附属幼稚園で働いて2年目で、3歳児の担任をしています。入園当初は一人遊びが多かった子どもたちも、徐々に友達と一緒に遊ぶことも増えてきました。この仕事を始めて、1年間を通して子どもの成長にかかわることにやりがいを感じています。最近だと、登園して部屋に入るとすぐ玩具で遊んだり、絵本を読んだりするのに夢中になってしまい、4月中は一度もお帳面に自分でシールを貼ることがなかった男の子が、5月に入ると声をかけるだけでシールを貼ることができるようになりました。小さなことではありますが、自分のことのように子どもとできたことを喜びました。一方的に叱るのではなく、褒めて伸ばす保育を心がけています。

佐保で学んでよかったことは？

本当にアットホームな大学で、一人ひとりの学生を気にかけてくださる先生方が多く、在学中に悩みを抱えていると必ず相談にのってくれました。そのような先生方のもとで学び、子どもに寄り添った保育をしようと心に決め、今でもその心を大切に毎日保育しています。

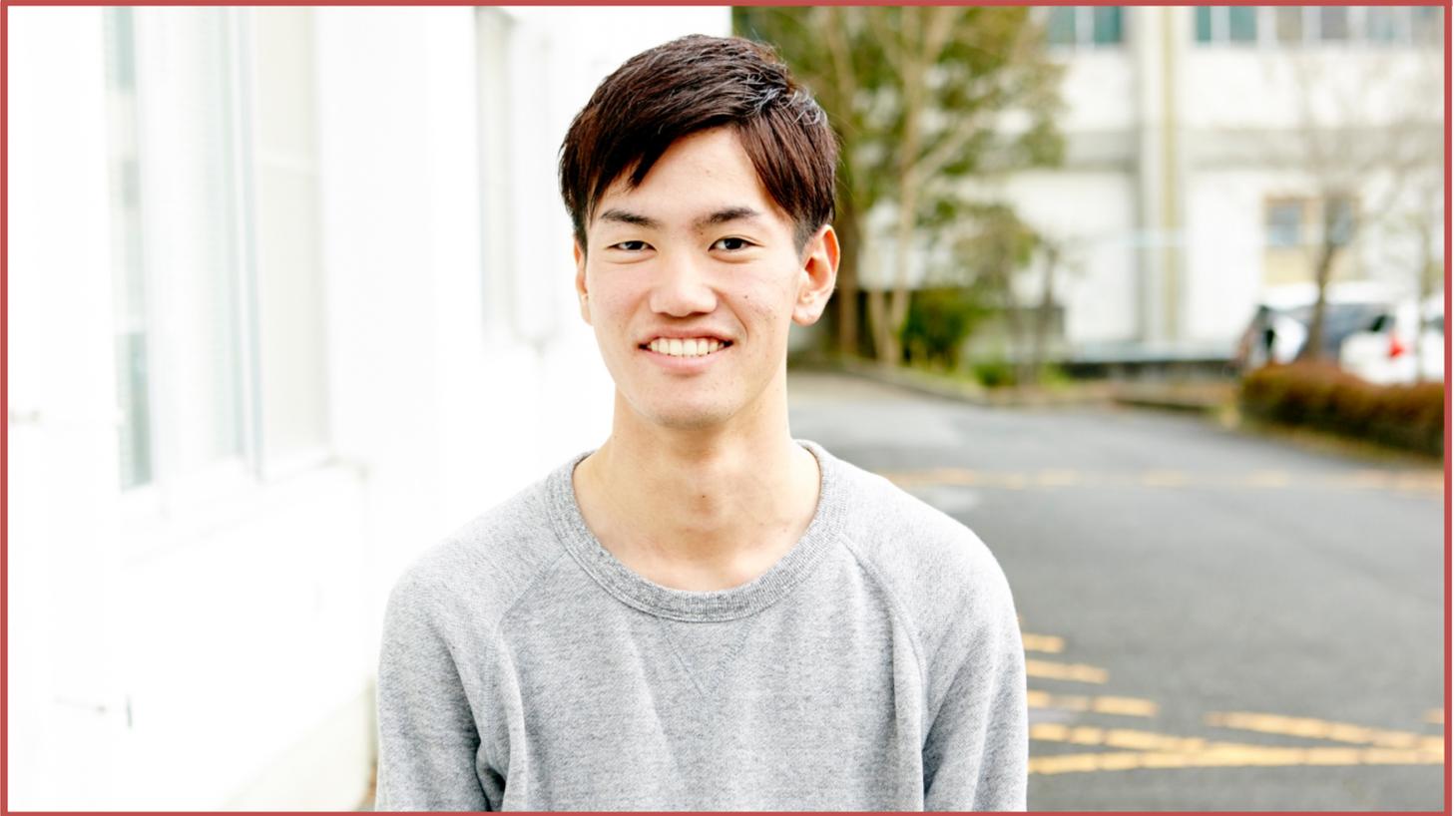
現在のお仕事について教えてください。

幼児教育科と専攻科を卒業し、保育士、幼稚園教諭二種免許状と介護福祉士資格を取得し、富山型デイサービス「このゆびと一まれ」で働いてこの4月で6年目になりました。富山型デイサービスというのは、同一施設内で過ごす高齢者、障がい児・者を対象とした、富山県で生まれた福祉サービスの形態をいいます。家庭的な雰囲気の中で、世代や障がいの有無にかかわらず、共に過ごすことで、それぞれのできることを自然に行っている場所です。仕事としては、介護や手助けが必要な方たちへの介助（食事、入浴、排せつ等の日常生活に必要なこと）を行ったり、障がい児・者、赤ちゃんや子どもたちにかかわったりしています。赤ちゃんからお年寄り、障がいがあってもなくても誰でも一緒に過ごす中で、どのように自然に利用者同士がかかわってもらえるのか、考えることにやりがいを感じています。

佐保で学んでよかったことは？

たくさんあります。まずは、保育や介護を楽しいと思えたことです。また、実習のときやプライベートでも悩んだときは先生や友だちに相談できました。同じ学校で知り合った友だちもそうですが、先生との距離がとても近く、親身になって聞いてくれます。同じ年の友達だけでなく先輩とも仲良く出来る場だと思います。





貧困や虐待に対して、自分にできることは何だろう。
佐保での経験を糧に、社会福祉士を目指して学び続けたい。

VOICE

卒業後、四年制大学に編入して学ぼう と考えたきっかけは？

短期大学では幼児教育について学んでいたのですが、福祉系の授業を受講するうちに、子育て支援や子どもの育つ環境が重要だと考えるようになりました。子どもの育つ環境、例えば、貧困や虐待などの問題に対して、自分が何かできないかと考えるようになり、社会福祉士として社会制度や相談援助技術を身に付けられたらと考えたことが大学に進学した理由です。

現在の学生生活について

四年制大学に3年次編入をしたときに、短期大学で取得した単位を認定してもらうことができたので、専門的な科目を集中して学ぶことができています。まだ入学して1ヶ月くらいですが、障害をもった方、高齢者、児童などにかかわる福祉分野の勉強を中心に、毎日大学で学んでいます。短期大学での授業は、同じ目的を持ったクラスの仲間と毎日を過ごし、ほぼ全員の名前が

言えるくらいの授業規模でしたが、今は百人単位の授業を学年もバラバラで受けることが多く、少しびっくりしています。現在は児童、障害者に加えて高齢者にかかわる勉強も始めて、興味、疑問がたくさん湧いてきています。また、介護系のゼミを選択したので、毎週高齢者のニュースを少人数グループで話し合ったり、車椅子体験から具体的な操作方法について学んだりしています。

佐保で学んでよかったことは？

私は、短期大学在学中に400時間以上の学外実習をすでに経験してきました。これから取り組む学外実習についても、事前にどのような準備をしたらよいか、実習中の観察の仕方や記録をどのように行うかについて、今までの経験を活かして、より深く学べる実習にしていきたいです。

また、ピアノの授業にも一生懸命取り組んできたので、たくさんの曲を弾けるようになり、自分に自信をつける

ことができました。あきらめずに最後まで取り組むことで、やり遂げることの大切さを知ることができました。



「プチアセピ」のバックナンバー
もご覧いただけます。



LINE@ × narasaho スタート！
受験生向け注目情報をLINEで発信

